

町長

ひとりで

97

斉藤

讓



去る一月十七日早朝に発生した「兵庫県南部地震」は、一瞬にして近代都市神戸やその周辺の街を壊滅状態に陥れてしまった。二十一日付の新聞は、死者、行方不明者は五千人を超え、負傷者二万三千余人、倒壊家屋四万二千余戸と報じている。これに加えて電気、ガス、水道は言うに及ばず、鉄道、更には安全性に自信をもっていた高速道路までもが崩落し、被災地のライフラインはことごとく破壊されて大混乱を呈しており、その被害は測り知れないほど甚大である。連日連夜放映されるテレビの被災地の様子は、息を飲むほどの惨状である。ここに改めて、亡くなられた皆様やそのご遺族に、心から御悔みを申しあげると共に、被災された皆

様に衷心より御見舞い申しあげたい。不自由な避難生活をされている人々の姿を見るにつけ、その痛ましさ胸がしめつけられる思いである。頑張つて欲しい。これは他人事ではなく、明日は我が身と知るべきだ。国民互助の精神で、国を挙げて支援をし、一日も早い復興を果たすことが、いま強く求められている。

▼神戸は全国の中でも屈指の近代都市として、近年めざましい発展を遂げてきた。長い歴史と、恵まれた自然、社会環境の中で形成される街には夢とロマンがあふれ、ここから発信される文化や情報は、大きな影響力となつて全国各地に波及していった。この魅力ある美しい街が、大地震の一揺れで呆気なく瓦礫の山と化してしまったのである。未だ夢の心の出来事のようにであり、ま

して被災者にとってその思いは、尚更のことであろう。あるご年輩の方が、こう語っているのを聞いた。

「犠牲になった人々や、被災者の皆さんは本当にお気の毒だ。最近、各地で大地震が発生しているが、この次は関東地方に起こるのではないかととても不安だ。しかし、これもよく考えてみれば、自然の脅威を忘れて平和惚けし、その日を貪る日本人に、自然が下した鉄槌なのかもしれない。」

大地震の教訓



▼耳に残る一言である。たしかに現代に生きる私達は、科学の進歩がもたらす恩恵によって、便利で豊かな社会を築いてきた。人々は、その飽くなき追求こそが、幸を増すことだと固く信じている。しかし、人間をはじめ生きとし生けるものは、

総て自然に支配されていることを忘れてはならない。自然に支配されているという事は、自然の総てを知りつくし、これを克服することができないからだ。我々のいう科学技術の進歩は、深遠な自然の実相から見れば、

それは限りなく微少なものでしかなかったのではなからうか。だから、私達人間が長い時間をかけて築いてきた社会の基盤は、心細いような前提条件のうえに成り立っているのである。従つて、もしこの前提条件が崩れれば、このうえに組み立てられたものも当然崩れ去る運命にある。今度の大地震は、高速道路をはじめ高度な生活様式を彩った近代都市基盤の前提条件を、いとも簡単に覆したわけである。その結果、近代化と称する便利なものは、一瞬のうちに危険、そして不便なものに逆転してしまった。ガス、水道の止まった炊事場、お湯のないインスタント食品、水の出ない水洗便所等々、どれもみな災害現場では、無用の長物である。こんな災害現場では、前近代的として過去の遺物に退けられた品々や、設備が大きな役割を果たすことを改めて教えられた。

▼ところで、今回の災害を通して、国をはじめ地方自治体の危機管理体制の不備が、改めて各方面から指摘されている。国も地方もそれなりのマニュアルを作り、防災訓練を実施しているのだから、それが機能を果たさない机上計画であつたのかもしれない。このことは、当町とて猛省をしなければならぬし、一から計画を見直す必要があると考えている。官民共に「安全のための経費」を当然のこととして考える思想と実行力が絶対に必要であることを認識しなければならぬ。それにしても、対策に当たっている行政はじめ関係担当者の皆さんのご心労、ご苦勞も並大抵のことではないと思う。しかし、この人達や機関がいくら頑張つても、これほどの大規模な災害の初期段階では、おのずから限界がある。それを補う最も効果的な対応は、隣近所の助け合いを置いて外にはあるまい。

相互扶助の精神は、日頃の交流の中でのみ育ち、危機に臨んで花開くことを、思い知るべきである。